

3 底魚漁場調査

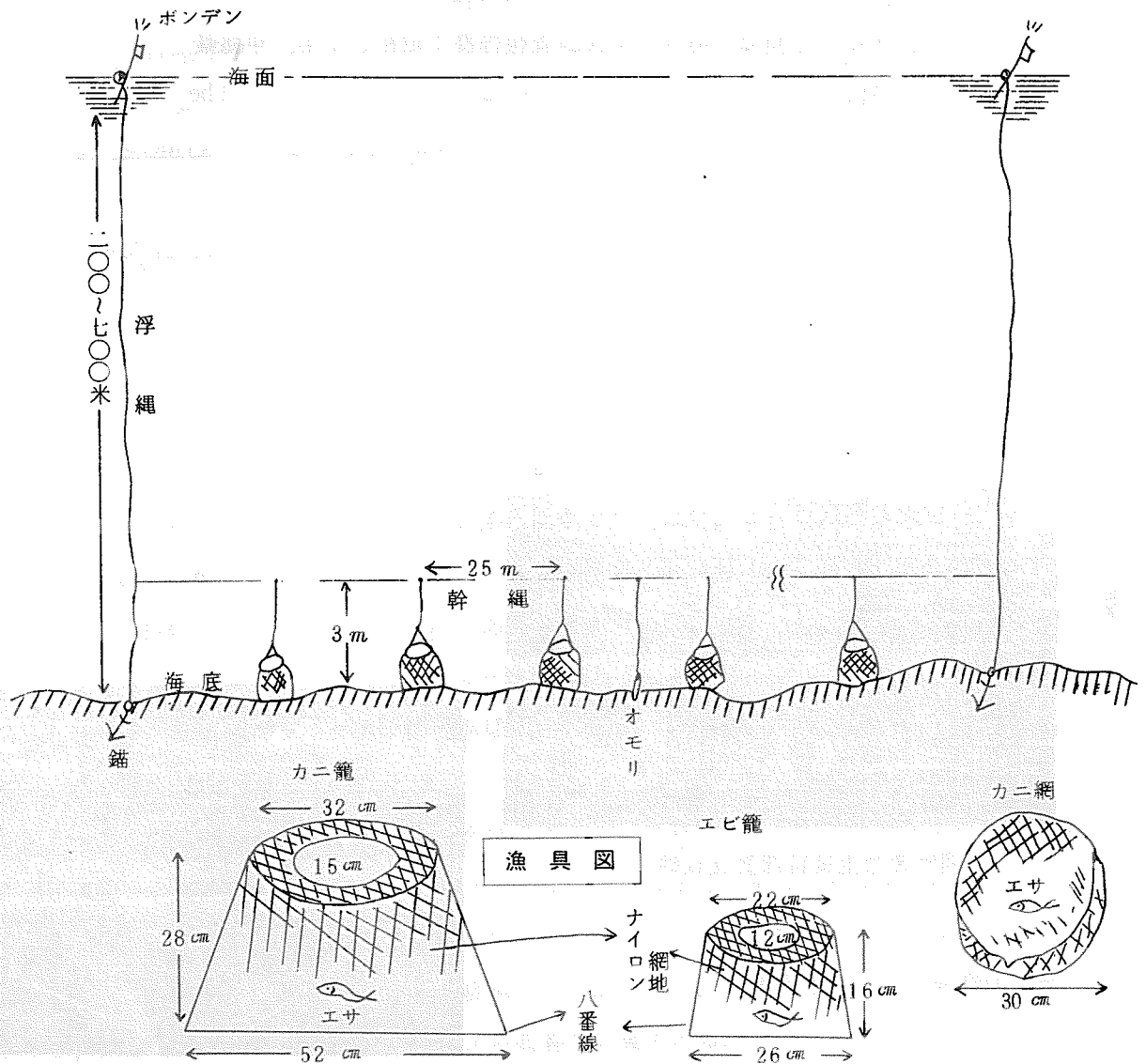
当真嗣誠、金城武光、新垣盛敬

1. 目的

本県の各島嶼の島棚斜面域から深海域に棲息する有用底棲資源を探索し、未利用資源の有効利用と、沿岸漁業としての成否を検討する。

2. 材料と方法

調査船は、図南丸とくろしお、調査漁具は別図のような籠を使用し、餌は冷凍ムロアジ（1尾120g程度）2つ切りにして、1籠に半分ずつ取付け、日没前に延縄式で投籠し、1晩中海底に沈設して翌朝ラインホーラーで籠を引揚げ、漁獲調査を行った。



操業模式図と漁具仕様図

3. 結果

調査船	出 港		調 査 海 域	漁 場 水 深
	入	港		
くろしお	53年 9月 5日	〃年 9月 9日	残波岬西方沿岸	180~480 m
函 南 丸	53年12月12日	〃年12月18日	残波岬西方沿岸、ナゴ湾~伊江島西方沿岸 辺土名西方沿岸	200~400 m、310 m 35~360 m

漁獲物は、エビ類では、ミノエビ、オキノスジエビ、ウチワエビ、ハコエビ、チュウコシオリエビ、カニ類では、エンコウガニの一種、オオギガニの一種、キンセンモドキ、ソデナシカラツパ、フタホシイシガニ、ツノハリセンボン、トゲハリセンボン、イボガニ、ビワガニ、貝類は、種属不明の稚貝が3種（バイの仲間）魚類は、キアマダイ、オキナワヤジリザメ（アイザメの一種）、ツノザメ、ノコギリザメ、カラスザメ、ナスカザメ等の入籠が確認された。その中で最も収穫の多かったのはミノエビである。また有用資源として考えられるものは、エビ類では、ミノエビ、オキノスジエビ、ウチワエビ、カニ類では、エンコウガニの一種、オオギガニの一種、キンセンモドキ、フタホシイシガニ、魚類では、キアマダイ、アイザメの一種、ツノザメ等であろう。然しながらこれ等も商品価値の面では低い方の部類に属するものが少なくない。

ミノエビの大きさ


漁獲位置 N 2° 6' - 24' E 127° - 36' 附近一帯


表 1

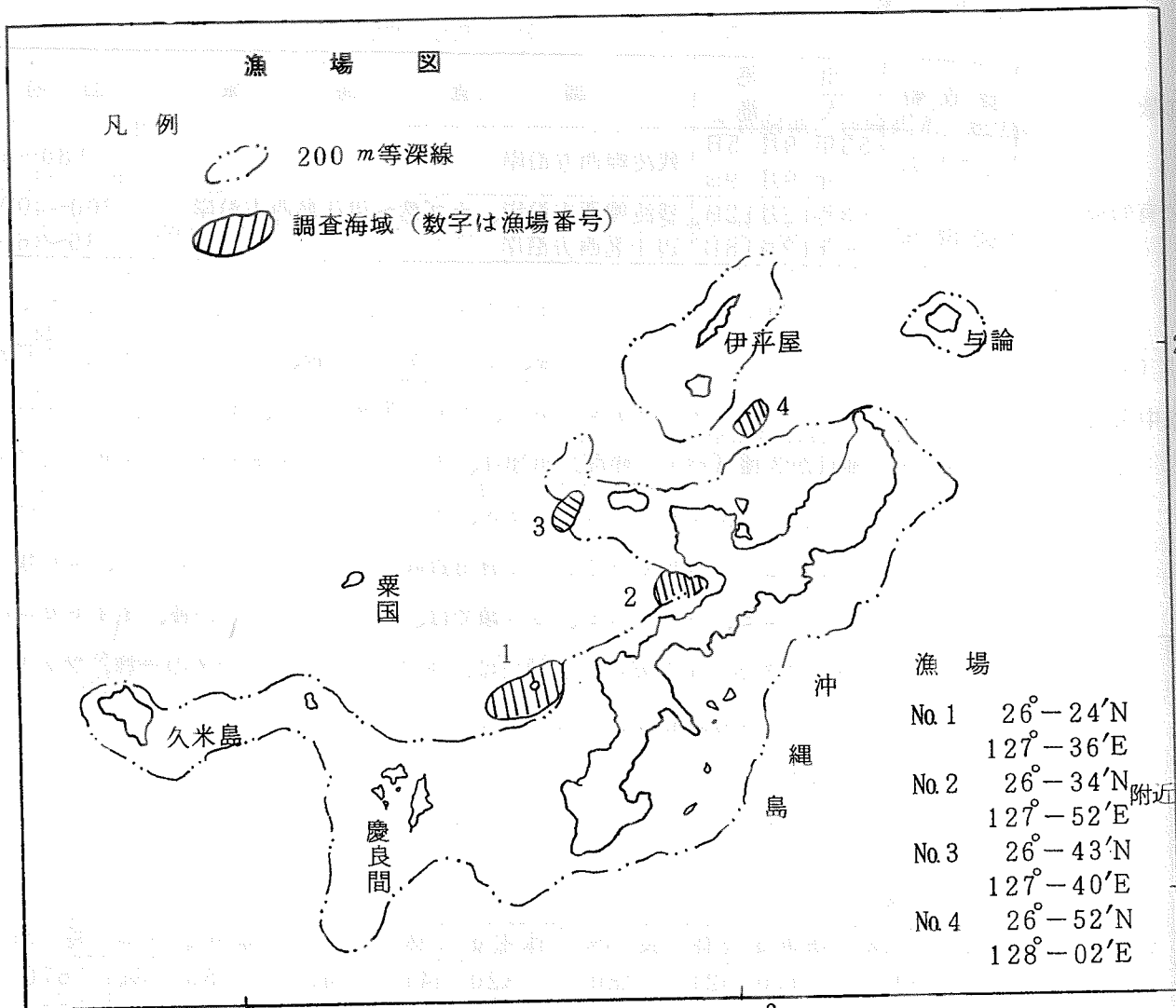
体 長 cm	体 重 g	体 長 cm	体 重 g	体 長 cm	体 重 g	体 長 cm	体 重 g	
1	8.17	9.10	21	7.80	8.20	41	7.40	7.50
2	8.02	8.98	22	7.90	8.60	42	8.20	9.60
3	7.36	7.10	23	5.30	2.30	43	7.20	6.40
4	8.37	9.95	24	7.00	6.20	44	7.80	8.10
5	7.80	7.50	25	7.00	5.60	45	7.80	8.00
6	7.38	6.58	26	7.50	6.90	46	7.70	8.20
7	7.68	7.41	27	7.70	8.40	47	8.10	8.90
8	7.38	8.10	28	8.20	9.10	48	7.30	6.90
9	7.09	6.10	29	7.50	7.50	49	7.00	5.70
10	7.90	8.70	20	7.60	7.90	50	8.30	10.60
11	8.50	11.00	31	7.50	7.50	51	7.70	7.80
12	7.80	8.70	32	7.80	7.60	52	7.50	7.50
13	7.00	6.60	33	7.40	7.50	53	7.90	8.40
14	6.50	5.10	34	7.30	7.00	54	7.20	6.30
15	6.90	5.80	35	7.10	6.70	55	7.20	6.40
16	7.00	5.80	36	7.60	8.10	56	8.00	8.60
17	7.10	6.30	37	8.30	10.10	57	7.40	7.00
18	7.30	6.70	38	8.10	9.40	58	7.10	6.50
19	7.50	7.50	39	7.10	6.40	59	6.90	6.10
20	7.10	6.30	40	7.90	8.90	60	7.70	7.70
						80	7.40	7.10

漁場図

凡例

 200 m等深線

 調査海域 (数字は漁場番号)



漁場

No. 1	26°-24'N 127°-36'E
No. 2	26°-34'N 127°-52'E
No. 3	26°-43'N 127°-40'E
No. 4	26°-52'N 128°-02'E

表1のミノエビは、残波岬西方沿岸水深200~480mの海域で漁獲されたものである。体長は、5.30cm~8.70cmで平均体長7.48cm、体重は2.30gから1.20gの範囲で平均7.44gである。同海域で9月に漁獲されたミノエビは、全部完熟卵を有していたが12月に漁獲されたものは放卵後のものも混獲されている。

水温の鉛直分布℃

水深	月日	54年9月6日	54年12月13日	54年12月15日	54年12月18日
0 m		30.45	23.41	23.14	22.58
10		28.44	23.41	23.13	22.58
20		27.75	23.38	23.17	22.64
30		27.90	23.35	23.20	22.63
50		26.58	23.30	23.18	22.59
75		23.92	23.36	23.17	22.63
100		22.78	23.35	23.15	22.55
150		21.35	20.44	22.74	22.26
200		19.62	18.27	17.14	18.54
300		17.20			

No. 1 漁場

No. 1 漁場

No. 2 漁場

No. 4 漁場

要約及び考察

1. 初回くろしおでの調査は、エビ類を狙っての試験操業であったため、ナイロン網地で仕立てられた籠を使用した。(漁具図参照)
2. サメ類による籠の破損が大変に多く、これがため、先に入籠したエビ類は、サメ等の餌食となり、または、籠の破損箇所から散逸した形跡があり、破損のない籠にはミノエビ等1籠に8~10尾程度の入籠があった。
3. 初回は漁具の構造や素材等での失敗があったので、これを契機に今後も有用資源の開発と同時に最も効率の高い漁具漁法の確立が望まれる。
4. 深海の生物資源は、珍種や種属不明のものが割合に多く見受けられるので、それぞれの有効利用の面で検討することと、更にこれ等の資源量や分布状態を究明する必要がある。

24'N
36'E
34'N 附近
52'E
43'N
240'E
52'N
02'E

ある。体
用で平均
2月に漁

18日
8
8
4
3
9
3
5
6
4

場